

平成28年度決算

亀山市

平成28年度つうしんぼ わかりやすい決算書

のぼの森公園

平成28年度 決算

平成28年度の一般会計、特別会計、企業会計の決算が市議会で認定されました。

平成28年度は、厳しく先行き不透明な財政状況の中、第1次総合計画後期基本計画の最終年度となる4つの戦略プロジェクト（まち守り・まち磨き・みんな健康・子ども輝き）を中心に、さまざまな施策に力を注ぎました。

「平成28年度つうしんぼ」では、皆さんに納めていただいた税金や、国・県から市に入ったお金がいくらで、どのように使われたか、また、市の財政状況はどうなっているのか、詳しくお伝えします。

一般会計 歳入 204億5,517万円

市税の内訳

種類	決算額
市民税	32億1,241万円
固定資産税	58億6,714万円
軽自動車税	1億3,745万円
市たばこ税	3億6,387万円
特別土地保有税	30万円
入湯税	255万円
都市計画税	7億5,082万円
合計	103億3,454万円

繰入金 8億7,249万円 (4.3%)

分担金及び負担金ほか 6億3,937万円 (3.1%)

繰越金 5億2,951万円 (2.6%)

諸収入ほか 4億3,317万円 (2.1%)



国庫支出金

22億1,526万円 (10.8%)

地方交付税

16億1,294万円 (7.9%)

市債

14億4,850万円 (7.1%)

県支出金

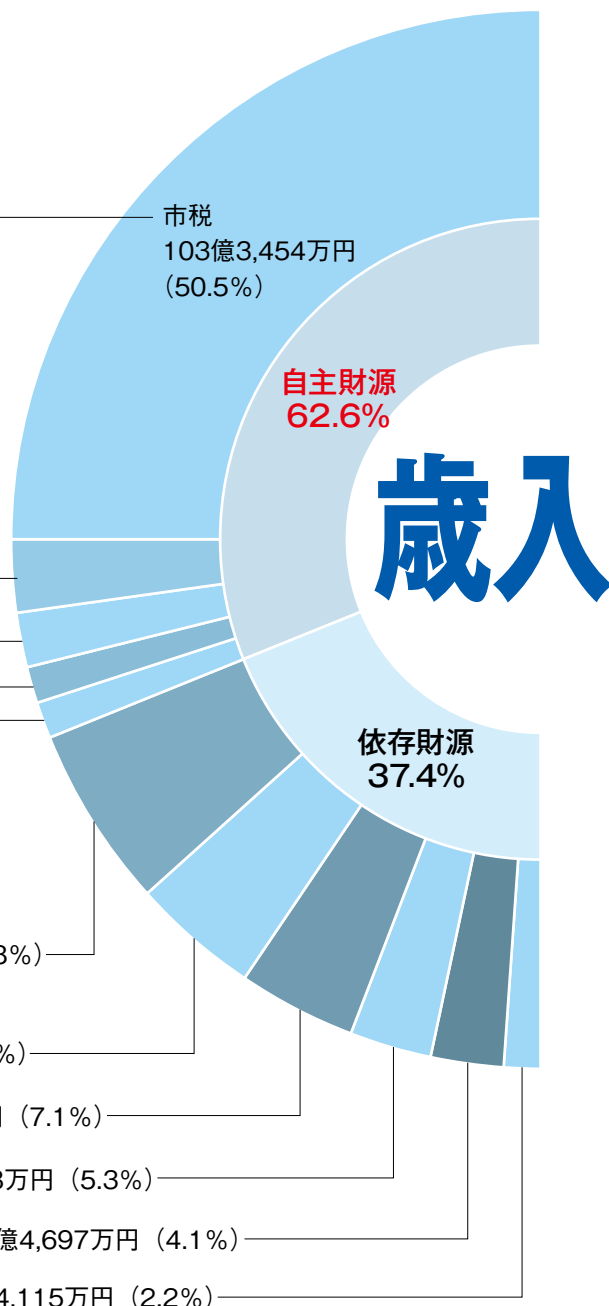
10億8,128万円 (5.3%)

地方消費税交付金

8億4,697万円 (4.1%)

地方譲与税ほか

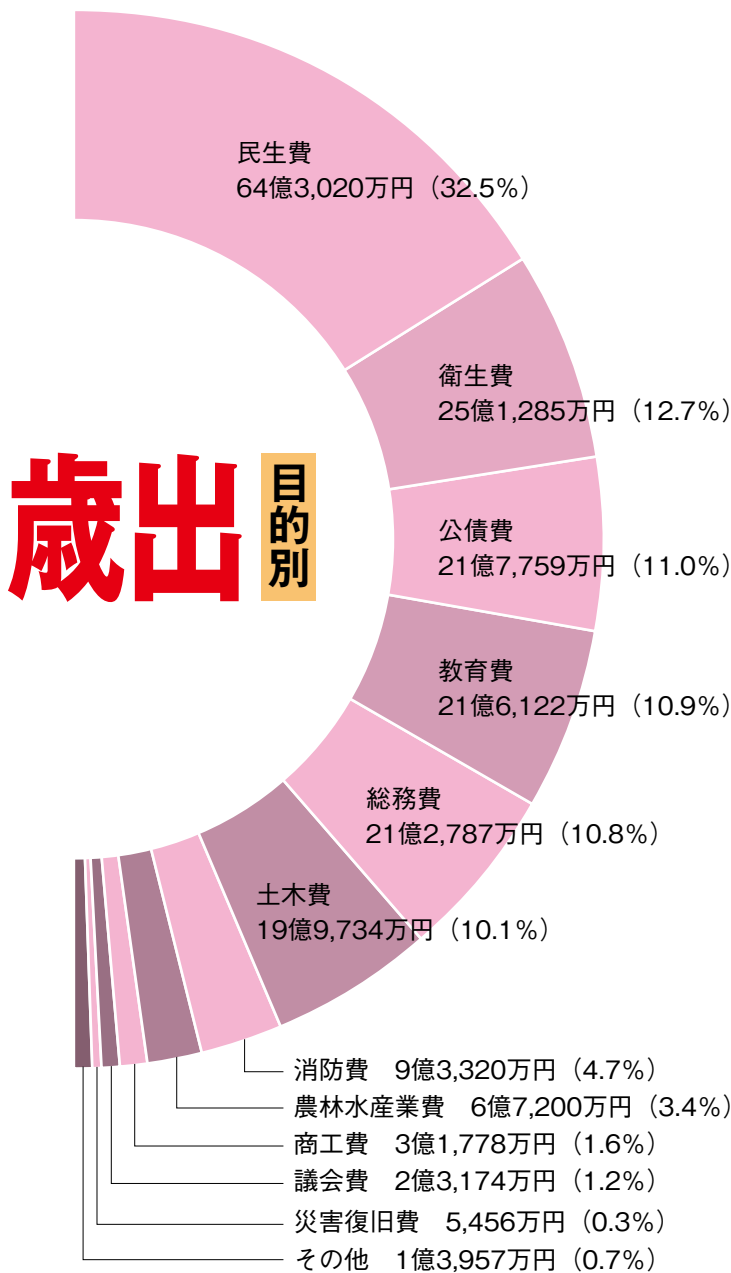
4億4,115万円 (2.2%)



歳入は前年度より約8億1千万円減少した決算となりました。地方財政の自主性を確保する自主財源は、市税収入が約3億円の減収となったことが大きな要因となり、前年度より約3億9千万円減少しましたが、構成比は歳入全体の62.6%となりました。依存財源についても、地方交付税や地方消費税交付金などが減収となったことにより、約4億2千万円減少し、構成比は全体の37.4%となりました。

一般会計の歳入は204億5,517万円、歳出は197億5,592万円。歳入歳出差引額は6億9,925万円となり、翌年度に繰り越す財源を控除した実質収支額は3億3,052万円の黒字となりました。

歳出 197億5,592万円



●市民1人当たりの歳出 (一般会計)

市民1人当たりに換算すると **398,868円**

民生費 129,824円

各種福祉事業を行うためのお金



衛生費 50,734円

市民の健康管理やごみ処理に使うお金



公債費 43,965円

借入金(市の借金)の返済や利子支払いのためのお金

教育費 43,635円

学校教育や社会教育などに使うお金



総務費 42,961円

地域振興や一般事務などに使うお金

土木費 40,326円

道路やまちづくりなどに使うお金



消防費 18,841円

消防施設や消防団運営に使うお金



農林水産業費 13,568円

農業や林業の振興に使うお金



商工費 6,416円

観光や商工業の振興に使うお金



議会費 4,679円

市議会の運営を行うためのお金



災害復旧費 1,101円

台風や大雨などにより被害を受けた施設の復旧に使うお金

その他 2,818円

基金の積み立てや勤労者の支援などに使うお金

※市民1人当たりの歳出額は、平成29年4月1日現在の人口(49,530人)で計算しています。

歳出は前年度より約4億8千万円減少した決算となりました。目的別で見ると、民生費は障がい者自立支援事業費の増などにより前年度と比べ約3億5千万円の増、教育費は川崎小学校改築事業の増などにより前年度と比べ約8千万円の増、土木費は公共下水道事業繰出金の減などにより前年度と比べ約4億6千万円の減、総務費は地区コミュニティセンター充実事業の減などにより前年度と比べ約2億3千万円の減となったことが主な要因です。

平成28年度に実施した主な事業

まち守りプロジェクト

災害に強い都市を目指して

プロジェクト事業の決算総額
2億7,740万円(平成28年度)

地震対策・木造住宅補強事業

7,293万円 地震被害の軽減のため、木造住宅の耐震補強計画の策定(37件)、補強工事(26件)除却工事(59件)に補助を行いました。

橋梁耐震化補強事業

3,257万円



地震災害時における道路利用者の安全・安心や避難路を確保するため、橋梁耐震補強工事を行いました。

舗装老朽化対策事業

1億1,993万円

安全・安心な道路整備を図るため、損傷の激しい市道川崎白木線(フラワーロード)の一部区間の舗装整備等を実施しました。



森林環境創造事業

591万円

水源かん養機能や土砂災害防止機能などの森林の持つ公的機能を発揮させるため、森林所有者から認定林業事業体が20年間の管理委託を受けた環境林について、間伐などの整備を進めました。



みんな健康プロジェクト

人にやさしい健康都市を目指して

プロジェクト事業の決算総額
1億7,019万円(平成28年度)

がん検診推進事業

9,081万円



がんの早期発見と正しい知識を普及するため、各種がん検診の実施や啓発活動を行いました。

三重大学亀山地域医療学講座支援事業

3,120万円

地域医療体制を強化するため、三重大学との寄附講座設置に関する協定を更新し、市立医療センターにおける診療体制の整備や総合医・家庭医の養成、本市をフィールドとした地域の保健医療の研究へ寄附を行いました。



介護予防事業

1,368万円

高齢者が要支援・要介護状態に移行しないよう、介護予防教室を開催しました。



特定健康診査事業

3,571万円

国民健康保険の被保険者に対し、生活習慣病に着目した特定健康診査や特定保健指導を行いました。



まち磨きプロジェクト

魅力的な都市空間を目指して

プロジェクト事業の決算総額
1億7,296万円(平成28年度)

関の山車会館整備事業

4,678万円



関の山車会館を整備するため、用地の公有化、施設の配置設計、歴史的建造物を保存修理する実施設計、埋蔵文化財の発掘調査などを行いました。

シティプロモーション戦略事業

1,860万円

市の魅力を市内外に効果的に発信し、定住人口・交流人口の増加を図るため、シティプロモーション戦略を策定し、専用ホームページを新たに開設しました。



亀山駅周辺整備事業

1,258万円

再開発事業などに向けて、都市計画決定の準備、周辺道路の詳細設計、地域へのコンサル派遣などを行いました。



伝統的建造物群保存修理修景事業

2,262万円

関宿における歴史的景観を保存整備するため、伝統的建造物などの修理修景事業に対する補助を行いました。

文化会館等大規模改修事業

2,579万円

施設の長寿命化と利便性の向上を図るため、中央コミュニティセンターの客席証明設備および調光改修を行いました。

子ども輝きプロジェクト

子どもたちが輝く環境を目指して

プロジェクト事業の決算総額
7億168万円(平成28年度)

川崎小学校改築事業

4億2,495万円

児童数の増加に伴う教室不足や安全管理面などの課題を解消し、児童の学習および生活環境の向上を図るため、校舎改築工事(1期工事)を行いました。



少人数教育推進事業

3,009万円

児童や生徒が確かな学力を身につけられるよう、少人数教育推進教員を配置して、市独自の少人数教育を推進しました。

中学生医療費無料化事業

3,061万円

中学生にかかる医療費負担の軽減を図るため、通院・入院に要する医療費への助成を行いました。

放課後子ども教室推進事業

1,318万円

各小学校区の子どもが地域の中で、健やかに育まれる環境づくりのために、スポーツや文化などの体験活動を行いました。

放課後児童クラブ事業

8,173万円

就労などにより保護者が昼間家庭に居ない小学生に、適切な生活の場を提供するため、放課後児童クラブの管理運営費用に対して、助成などを行いました。

このほか

このほか、こんな事業にも取り組みました

地域コミュニティのしくみづくり支援事業

192万円

市内すべての22地区で地域まちづくり協議会が設立され、地域住民による自主自立した地域活動を支援するため、地域活性化支援事業補助金の交付や、地域担い手研修を開催しました。

平成28年度に実施したすべての成果報告書を亀山市ホームページで公開しています。詳しくは検索してご覧ください。

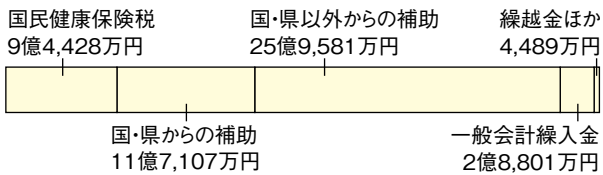
主な施策の成果 亀山市

検索

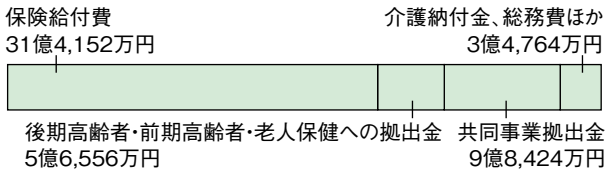
国民健康保険事業

平成28年度末の加入世帯数は6,092世帯、被保険者数は9,898人。医療費(自己負担分を除く)を保険給付費として国民健康保険会計から支払っています。

歳入 50億4,406万円



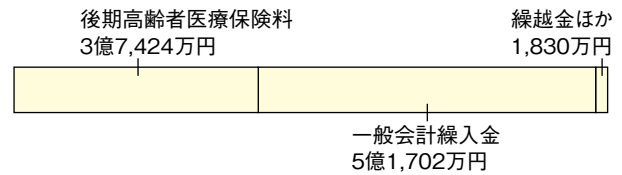
歳出 50億3,896万円



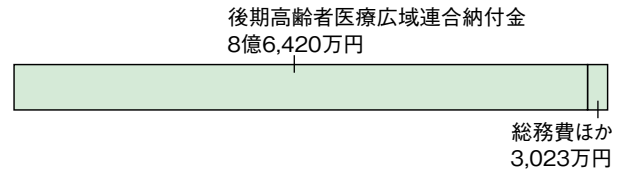
後期高齢者医療事業

75歳以上(一定の障がいがある場合は65歳以上)の高齢者を対象とした医療制度で、平成28年度末の被保険者数は6,298人です。

歳入 9億956万円



歳出 8億9,443万円



特別会計

特定の事業を行う場合に、特定の歳入をもって特定の歳出に充て、一般の歳入歳出と区分して経理する必要があり、一般会計とは別に特別会計を設けています。

亀山市では現在、国民健康保険事業、後期高齢者医療事業、農業集落排水事業の3つの特別会計があり、特別会計全体の決算額は、歳入が64億1,219万円、歳出は63億7,574万円、歳入から歳出を差し引いた額は、3,645万円となりました。



■ 一般会計からの繰入金

下記の特別会計や企業会計では、事業の運営を維持していくため、一般会計からの繰り入れを行っています。一般会計側から見ると「一般会計繰出金」となります。

特別会計

会計名	繰入金額
国民健康保険事業	2億8,801万円
後期高齢者医療事業	5億1,702万円
農業集落排水事業	2億9,175万円

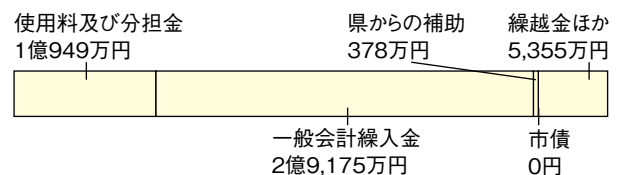
企業会計

会計名	繰入金額
公共下水道事業	3億8,900万円
病院事業	2億7,222万円

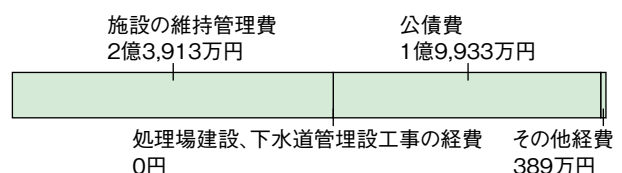
農業集落排水事業

公共用水域の水質保全や農村生活環境の改善を図るため、農業振興地域内において、全14地区が供用しており、2,816戸が加入しています。

歳入 4億5,857万円



歳出 4億4,235万円



水道事業

水道施設の耐震化を踏まえ、施設の更新を行い、給水については人口49,470人に1日平均17,684㎡を給水しました。

収益的収支(水道料金などでの収支)	
水道事業収益	13億1,713万円
水道事業費用	11億8,637万円
差引額	1億3,076万円
資本的収支(施設建設などでの収支)	
資本的収入	6,573万円
資本的支出	4億7,281万円
差引額	△4億708万円

工業用水道事業

工業用水として、供給先2件に対し1日平均1,935㎡を供給しました。

収益的収支(工業用水道料金などでの収支)	
工業用水道事業収益	8,020万円
工業用水道事業費用	5,276万円
差引額	2,744万円
資本的収支(施設建設などでの収支)	
資本的収入	0円
資本的支出	2,422万円
差引額	△2,422万円

企業会計

地方公営企業法の適用を受けて設置する自治体でも収益が認められている特別な会計であり、原則として独立採算制による業務運営が求められています。平成28年度決算では、水道事業、工業用水道事業、公共下水道事業、病院事業の4つの企業会計となっています。



公共下水道事業

三重県の流域下水道事業の関連事業として下水管渠の整備を進めており、平成28年度末には供用面積808.3ha、処理区域内戸数8,928戸、普及率50.3%になりました。

収益的収支(施設維持管理などでの収支)	
公共下水道事業収益	9億4,150万円
公共下水道事業費用	8億9,831万円
差引額	4,319万円
資本的収支(施設建設などでの収支)	
資本的収入	11億1,019万円
資本的支出	13億3,926万円
差引額	△2億2,907万円

病院事業

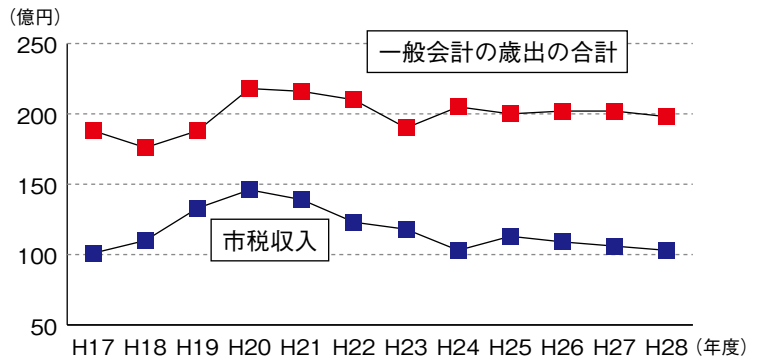
病床数は100床で、入院は年間延べ20,194人、外来は年間延べ37,864人が受診しました。

収益的収支(診療費などでの収支)	
病院事業収益	14億7,875万円
病院事業費用	17億3,966万円
差引額	△2億6,091万円
資本的収支(施設建設などでの収支)	
資本的収入	3億4,187万円
資本的支出	1億3,787万円
差引額	2億400万円

決算経過

亀山市は、今後の市税の減収や普通交付税の段階的な減額が見込まれる中で、創意工夫の行政運営が求められています。

一般会計の歳出の合計と市税収入の推移



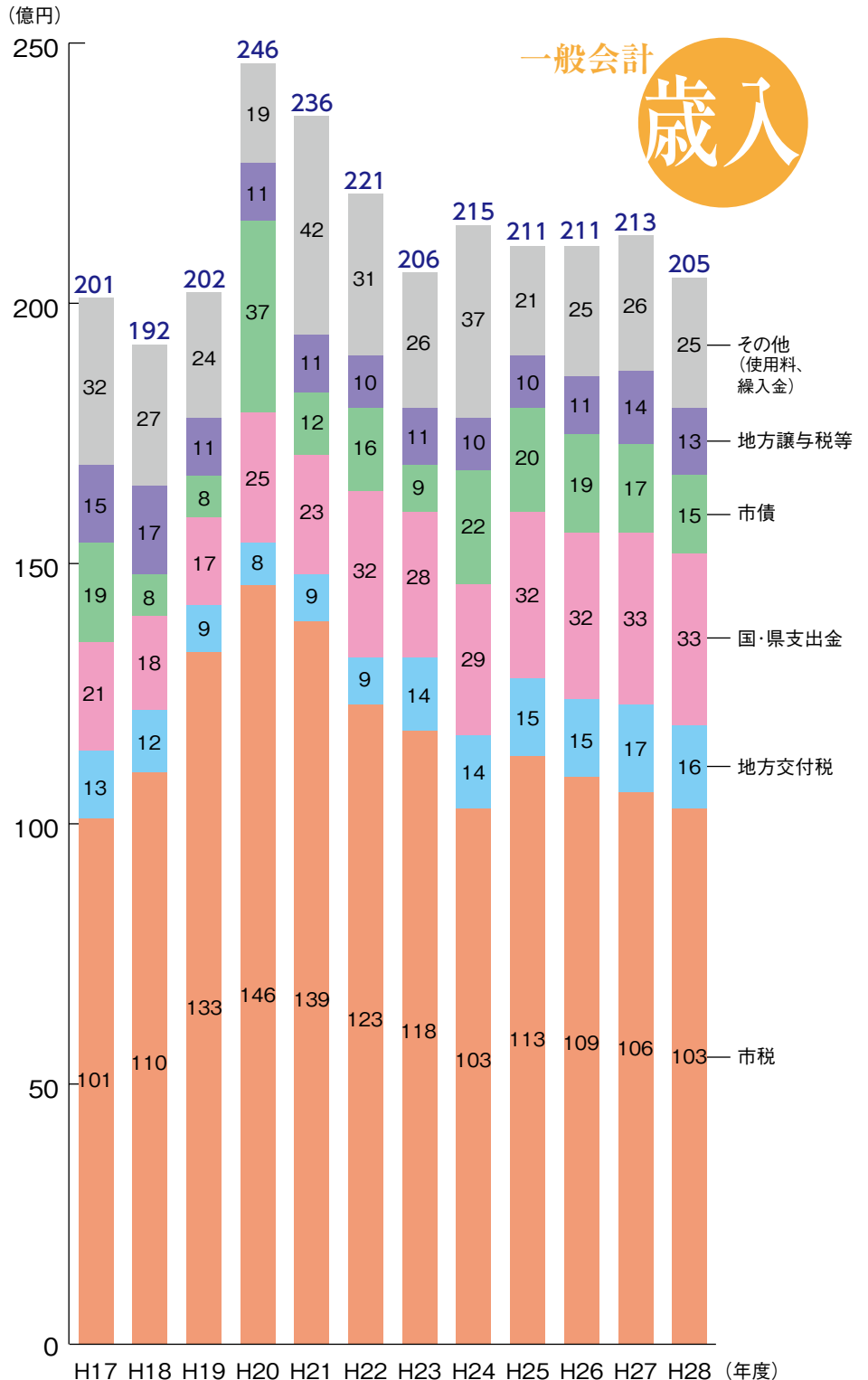
歳入の経過

人口はほぼ5万人で推移していますが、市税収入は平成20年度の146億円をピークに平成24年度まで減り続け、平成25年度決算では113億円と一時増収となった以降は減少し、平成28年度決算では103億円と前年度より約3億円の減収となりました。今後も引き続き厳しい状況が続くことが予想されます。

また、国・県支出金は33億円、地方交付税は16億円、地方譲与税等は13億円となり、前年度と比較して2億円減となりました。

市債（借金）は、し尿処理施設長寿命化事業、学校教育施設整備事業などの財源を借り入れましたが、前年度より2億円減の15億円となりました。

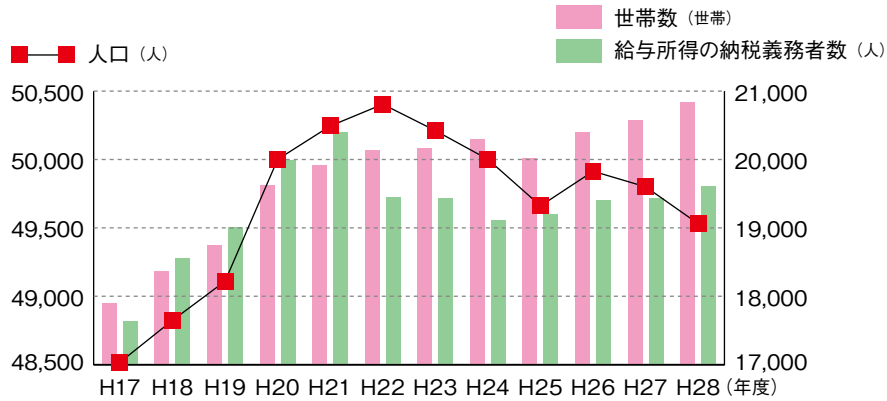
その他の収入は、使用料や繰入金などで25億円、前年度より1億円の減となりましたが、公共下水道事業の企業会計化に伴う繰出し財源としての繰入金が減となったことが主な要因です。



市税…市民税、固定資産税、たばこ税など 地方交付税…国税のうち市の取り分として交付されたお金 国・県支出金…国や県が市に対して支出したお金 市債…市が国や銀行から借りたお金 地方譲与税…国税・県税のうち市の取り分として譲与されたお金 使用料…市営施設の使用料など 繰入金…市の基金から引き出したお金

人口・世帯数・
納税義務者数の推移

※人口と世帯数は4月1日現在
※給与所得の納税義務者数は
7月1日現在



歳出の経過

人件費については、前年度並みの38億円となりましたが、扶助費については、前年度より3億円増の37億円となりました。

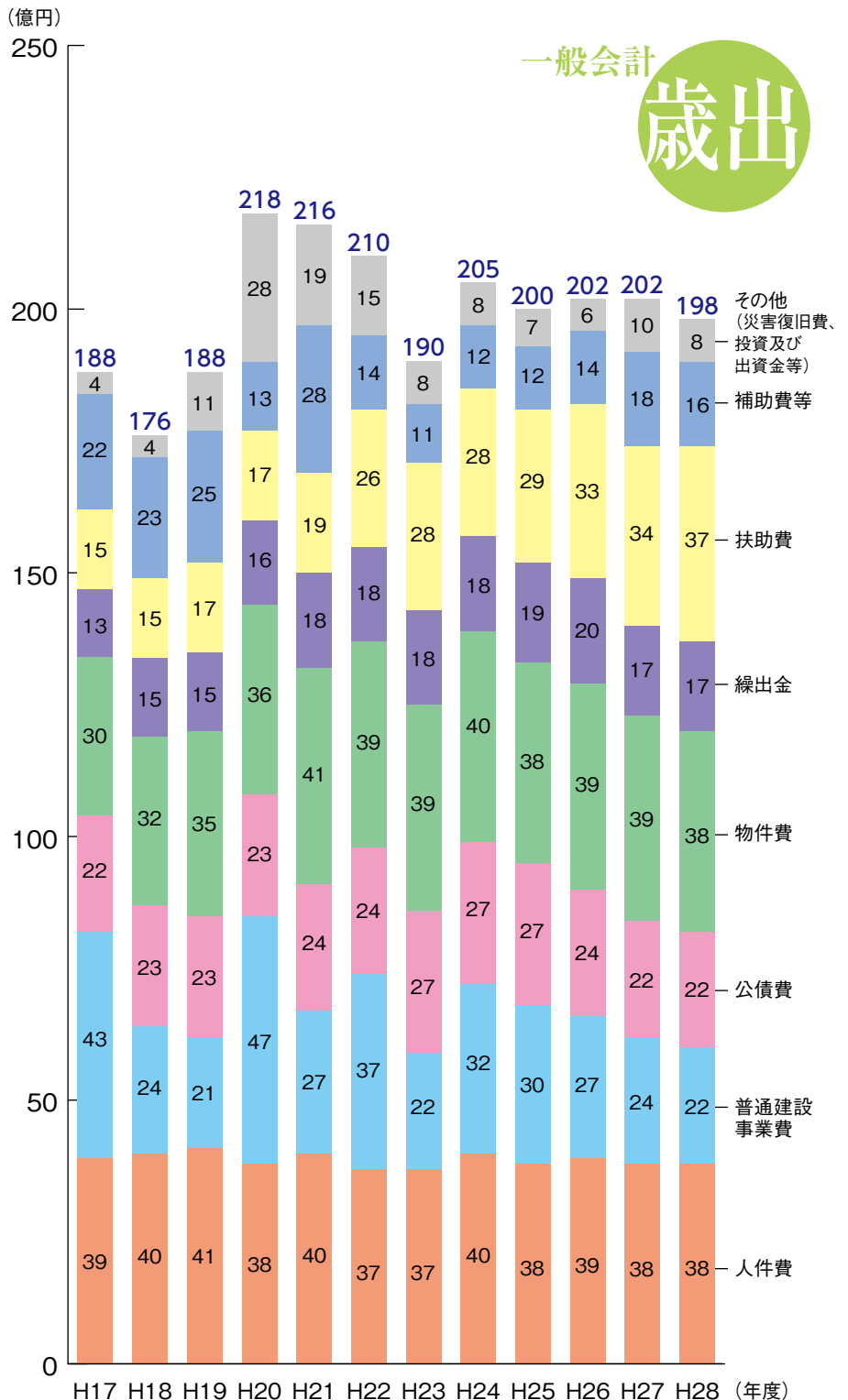
補助費等においては、公共下水道事業の企業会計化に伴う補助金の減により、前年度より2億円減の16億円となりました。

また、その他の経費中投資及び出資金においても公共下水道事業の出資金の減により前年度より2億円減の4千万円となりました。

普通建設事業費については、前年度より2億円減の22億円となり、主な事業として、野村布気線整備事業、し尿処理施設長寿命化事業に取り組んだほか、川崎小学校改築事業及び関の山車会館整備事業などの教育施設整備事業等の執行によるものです。

また、公債費(借金の返済)は、前年度並みの22億円となっています。

物件費については、前年度より1億円減の38億円となりましたが、歳出全体の約2割を占めていることから、引き続き、ごみ溶融処理施設や教育施設など各種施設の運営に係る経費削減を図る必要があります。



人件費…市職員の給料や議員報酬など 普通建設事業費…道路・学校・庁舎など、公共・公用施設の新築・改修に使ったお金 公債費…市債の元金・利子や一時入金の子
物件費…光熱水費、消耗品費、業務委託料など 繰出金…下水道事業や介護保険などの他の会計への繰出金 扶助費…生活保護、障がい者支援、医療費助成など福祉に
使ったお金 補助費等…報償費、負担金、補助金など 災害復旧事業費…大雨、暴風などの災害により被災した設備を復旧するためのお金 投資及び出資金…財産を有利に
運用するための投資や他団体への出資など

財政指標

自治体の財政状況を分析するための、さまざまな指数を総称して「財政指標」と呼んでいます。財政指標を見ると、亀山市が財政的に健全なのか、そうでないのか分かります。

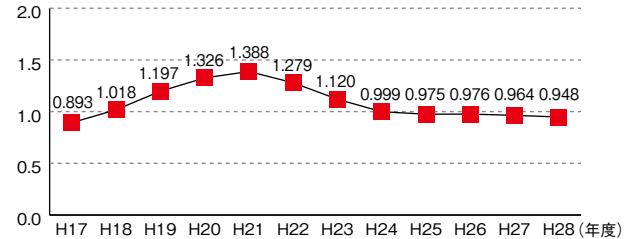
指標に加えて、基金の残高をグラフで表し分析しました。

財政力指数

0.948

地方公共団体の財政力を示すもので、一般財源の必要額に対し、市税等の一般財源収入額がどの程度確保されているかを表しています。指数が「1」に近い団体ほど財源に余裕があり、「1」を超えると普通交付税の不交付団体となり、標準的な水準以上の行政を行うことができます。

(県市平均0.671 県内14市のうち2位)
※3カ年平均の数字です。

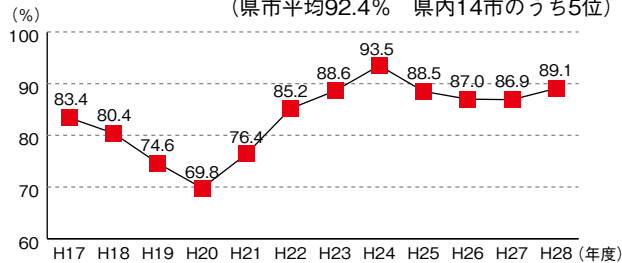


経常収支比率

89.1%

「経常的に収入された一般財源」が「経常的経費」にどのくらい充当されているか、その割合を示したもので、財政構造の弾力性を示す指標であり、比率が低いほど弾力性が大きいことを示しています。一般的には75%程度が妥当と考えられ、80%を超えると弾力性を失いつつあると言われています。

(県市平均92.4% 県内14市のうち5位)

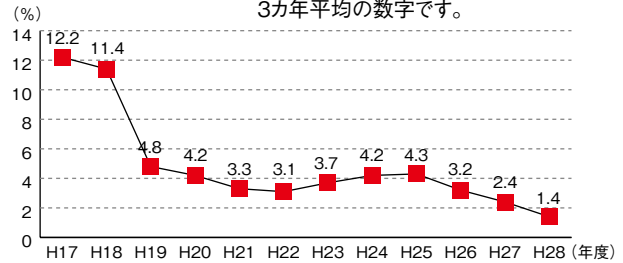


実質公債費比率

1.4%

地方公共団体の借入金（地方債）返済額の大きさをその地方団体の財政規模に対する割合として表したもので、公債費による財政負担の度合いを判断する指標です。

(県市平均7.9% 県内14市のうち1位)
※平成19年度決算から導入された指標で、3カ年平均の数字です。

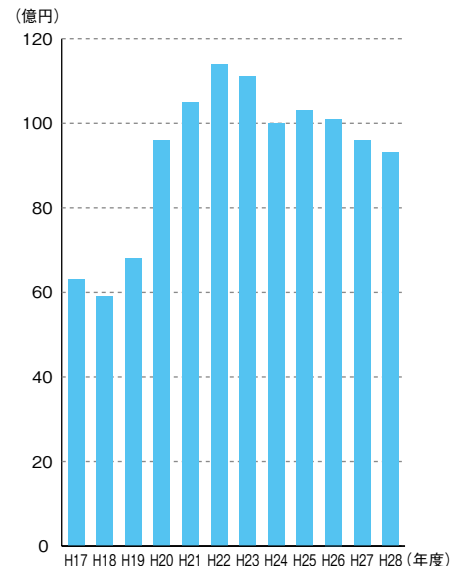


基金残高

約93億円

法律や条令に基づいて設置される基金は、特定の目的のために活用することができます。亀山市には平成28年度末で16の基金があり、残高は約93億円となりました。年度間の財源の不均衡を調整するための基金である財政調整基金については、市税の減収などにより繰り入れを行ったため、平成28年度で約3億円減少しました。

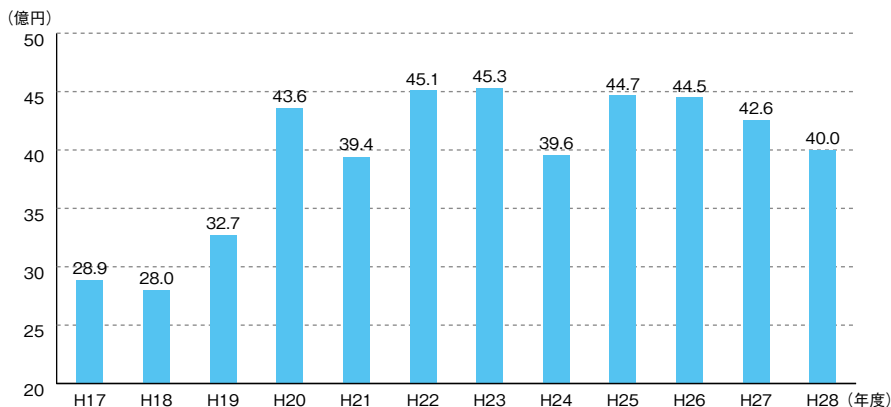
財政調整基金	40億40万円
減債基金	3億8,195万円
国民健康保険給付費等支払準備基金	65万円
リニア中央新幹線亀山駅整備基金	16億103万円
下水道事業基金	0円
農業集落排水事業債償還基金	1億3,674万円
地域福祉基金	2,929万円
公共施設等基金	0円
ふるさと・水と土保全基金	1,698万円
ボランティア基金	891万円
伝統的建造物群保存基金	468万円
庁舎建設基金	10億5,000万円
市民まちづくり基金	9億8,046万円
閑宿にぎわいづくり基金	3億6,779万円
土地開発基金	7億9,951万円
みえ森と緑の県民税市町交付金基金	171万円
計	93億8,010万円



財政運営

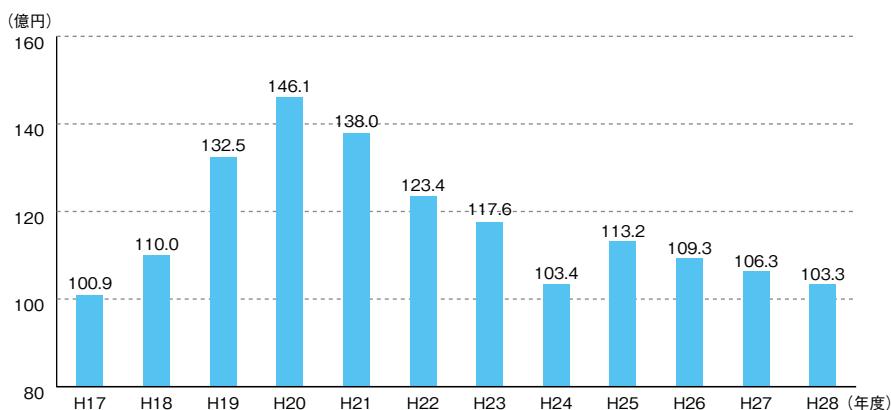
財政調整基金

市税などの歳入は年度によって増減があるため、収支が不足する場合があります。このような年度間の財源不足に備えるため、「財政調整基金」を設置しています。基金残高は、平成28年度末時点で約40億円と、目標とする「基金残高20億円以上」を上回っています。



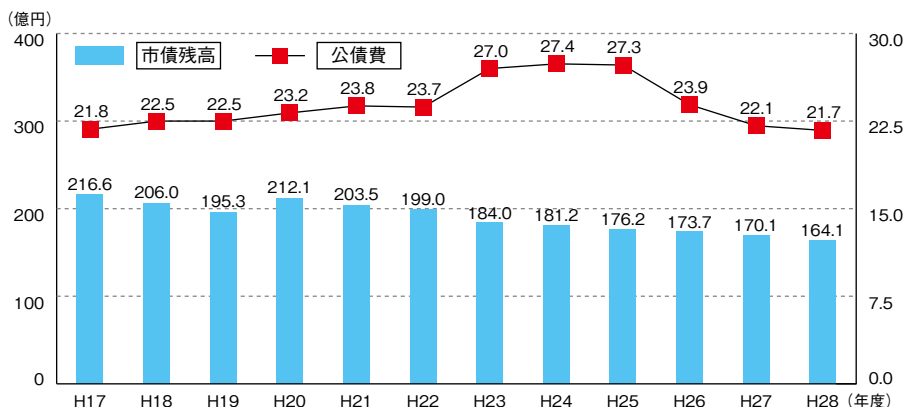
市税収入

市の歳入の根幹をなす市税収入は、平成20年度をピークに減少傾向にあります。市税全体のうち市民税と固定資産税はその大部分を占めており、個人所得と企業業績、また、新築住宅の建設などに支えられ、市税収入は100億円をキープしています。



市債残高(一般会計)

市債(市の借金)の借入は、後年度に負担する公債費(借金返済)の増加を抑制するため、国の財政措置を伴う有利なものに限って借り入れるなど抑制に努めてまいりました。その結果、市債残高は8年連続で減少しています。



今後の財政運営は

本市の平成29年度以降の中期的な財政見通しでは、歳入は市税の減収や普通交付税の合併による増額措置が終了するなど減少傾向にあり、また、歳出は第2次総合計画に盛り込まれた大規模事業の実施や社会保障費の増等による増額を見込んでいます。

これに対応するため、各基金の有効活用により財源を手当てするほか、第2次行財政改革大綱に掲げた20項目の具現化を図るとともに、新たな財源の確保として亀山・関テクノヒルズへの企業誘致や若者の移住・定住を促進します。「歳入に見合った歳出」という財政運営の基本にたち、事業の「選択と集中」による効率化・重点化を進めるなど持続可能な財政運営の確立を目指してまいります。

これからも健全な財政運営に努めます



平成28年度決算 亀山市

わかりやすい決算書

平成28年度 つうしんぼ

編集・発行 亀山市企画総務部広報秘書室
〒519-0195 三重県亀山市本丸町577番地
TEL 0595-82-1111(代) FAX 0595-82-9955
URL <https://www.city.kameyama.mie.jp/>